

栗原の稲作通信

第6号 令和7年7月25日発行

宮城県栗原農業改良普及センター

宮城県米づくり推進栗原地方本部

電話番号 0228-22-9404

○今後の栽培管理のポイント○

1. 管内における「ひとめぼれ」については、幼穂形成期～減数分裂期を迎えています。今後の気温が平年並みで推移した場合、**管内の出穂盛期は8月1日頃**となります。
2. **幼穂形成期から出穂後30日頃までは、品質維持のため、用水不足でも実施可能な「飽水管理」を行いましょう。**
3. 周辺草地及び本田における斑点米カメムシ類の発生が多くなっていることから、水田における薬剤防除は、穂揃期とその7～10日後の2回を確実に行いましょう。

1. 気象経過

○7月上中旬（7/1～7/20）の気温は平年と比較して、高く推移しています。降水量は少なくなっており、日照時間は多くなりました。

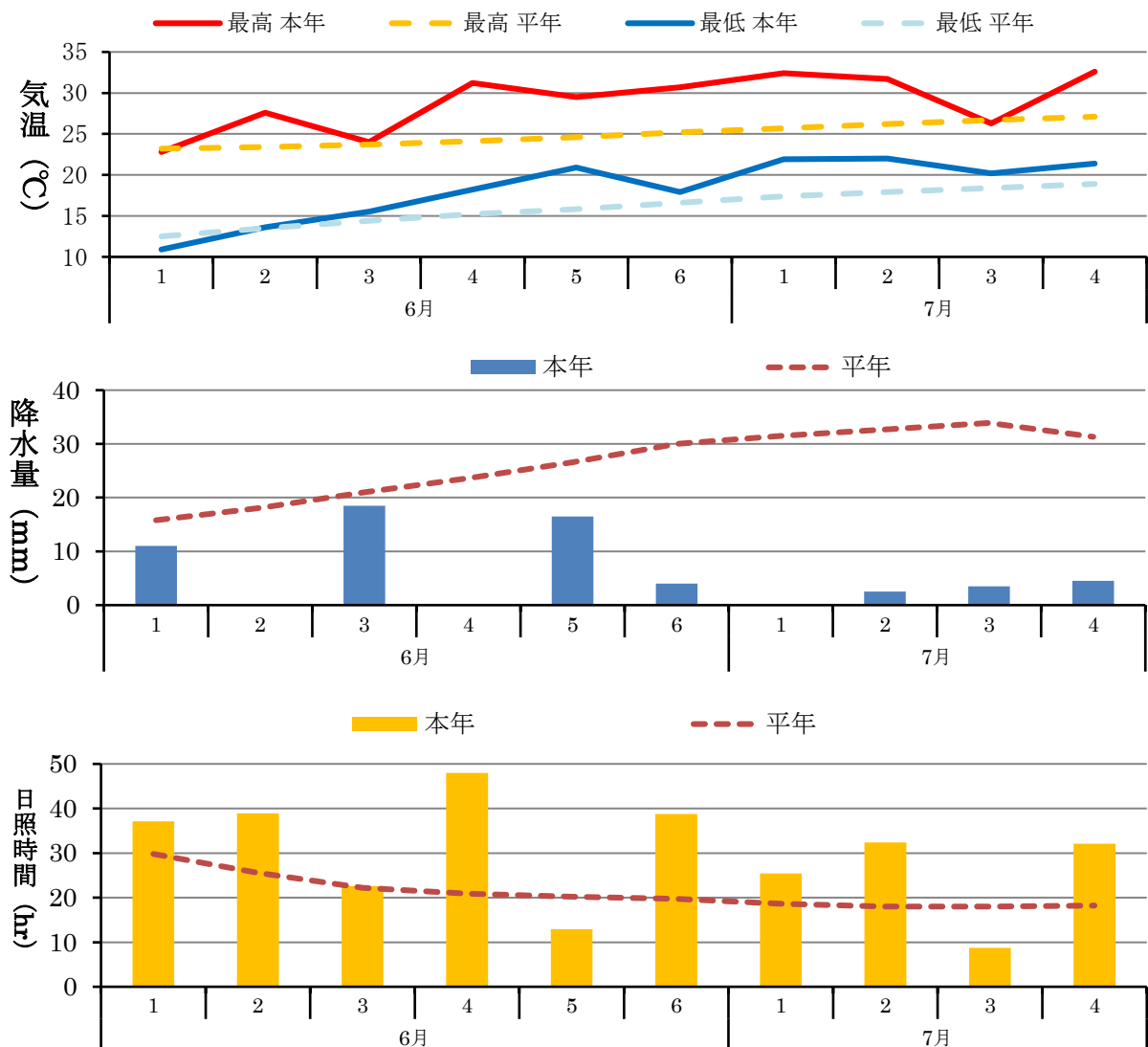


図1 6、7月の気象経過（築館アメダス） ※平年（点線）：令和2年～令和6年の平均値

2. 生育状況（7月18日現在）

1) 移植水稻

- 古川農業試験場における「ひとめぼれ」の生育状況（作況試験ほ場）は、草丈は77.9cm（平年比102%）、茎数は524本/m²（平年比89%）、葉数は11.7枚（平年差+0.1枚）、葉色（GM値）は35.9（平年差-0.3）となっており、**平年と比べて草丈は長く、茎数は少なく、葉数は並み、葉色は淡くなっています**（表1「ひとめぼれ 古試（5/9）」）。
- 管内の「ひとめぼれ」は、若柳では平年と比べて、草丈は長く、茎数は少なく、葉数は並み、葉色は淡くなっています。（表1「ひとめぼれ 若柳」）。また、一迫では平年と比べて、草丈は長く、茎数は少なく、葉数は並み、葉色は淡くなっています（表1「ひとめぼれ 一迫」）。
- 幼穂長については、一迫のひとめぼれ（5/10田植え）で133mm、若柳のひとめぼれ（5/21田植え）で14.8mmとなっています。

表1 7月18日 生育調査結果（移植水稻）

品種	地区	田植日			草丈(cm)			茎数(本/m ²)			葉数(枚)			葉色(GM値)			幼穂長(mm)		
		本年	前年差	平年差	本年	前年(%) 比	平年(%) 比	本年	前年(%) 比	平年(%) 比	本年	前年(枚) 差	平年(枚) 差	本年	前年差	平年差	本年	前年(%) 差	平年(%) 差
ひとめぼれ	若柳	5/21	2日早	1日早	74.8	98	101	461	93	74	11.9	-0.2	+0.2	32.7	-4.4	-3.3	14.8	-10	-15
ひとめぼれ	一迫	5/10	3日遅	2日遅	73.1	108	105	332	86	82	11.8	+0.0	-0.3	29.7	+0.1	-7.1	133	+79	+69
ひとめぼれ	古試	5/9	同日	同日	77.9	100	102	524	80	89	11.7	-0.1	+0.1	35.9	-0.1	-0.3	77.5	+47	+45
ひとめぼれ	古試	5/20	同日	同日	74.9	99	101	589	105	97	11.3	+0.1	+0.0	36.7	-0.4	-0.1	0.5	-0.4	+0.9
つや姫	築館	5/28	5日遅	6日遅	74.2	99	104	435	103	99	12.0	+0.3	+0.3	33.7	-2.1	-7.2	0.67	-2.4	-1.9
つや姫	古試	5/9	同日	同日	81.4	112	112	518	87	91	11.5	-0.3	+0.2	36.0	-0.7	-0.5	0.3	-0.8	+0.0
にじのきらめき	若柳	5/21	-	-	75.7	-	-	403	-	-	12.3	-	-	36.1	-	-	0.8	-	-

注1：平年値・比は過去5年間（令和2～6年）の平均値。

2) 乾田直播水稻

- 令和5年の乾田直播ひとめぼれに比べて、草丈は短く、茎数は少なく、葉数は多く、葉色は淡くなっています。
- 幼穂長は約30mmとなっており、減数分裂期を迎えています。

表2 7月18日 生育調査結果

播種様式	品種	地区	播種日		草丈(cm)		茎数(本/m ²)		葉数(枚)		葉色(GM値)		幼穂長(mm)	
乾田直播 グレーンドリル 播種	ひとめぼれ	志波姫	本年	R 5年 差	本年	R 5年 (%) 比	本年	R 5年 (%) 比	本年	R 5年 差	本年	R 5年 差	本年	R 5年 差
			3/27	17日早	67.1	93	208	35	10.8	+1.1	30.7	-9.0	30.8	+23

注1：令和7年度から品種を「ひとめぼれ」に変更（令和6年は「つきあかり」）。

注2：前年差・比は「ひとめぼれ」との参考比較。

3) 生育ステージ予測

「管内の出穂盛期は8月1日頃」

○今後の気温が平年並みであると仮定すると、管内の出穂盛期は8月1日頃と予測しています。ただし、今後の気温により生育ステージが予測値から変動することがあるため、ほ場で幼穂長を確認し、生育ステージを確認しましょう。

表3 管内の田植時期別の生育ステージ予測

栗原管内	田植期	幼形期	減分期	出穂期
始期(5%)	5月9日	7月5日	7月15日	7月25日
盛期(50%)	5月17日	7月11日	7月21日	8月1日
終期(95%)	5月25日	7月16日	7月26日	8月5日

注1：生育予測は「発育予測モデル」（古川農業試験場 水田営農部）を使用。

注2：アメダスデータは、7月22日までの築館アメダスの今年度実測値を使用。7月23日以降は、築館アメダス過去5年平年値（令和2年～令和6年）を使用。

注3：対象品種は「ひとめぼれ」。

3. 今後の栽培管理のポイント

1) 中干し後から出穂後30日頃までの水管理

○幼穂形成期～出穂・開花期前後にかけては、稲体の水の吸収量が最も多く、この時期の水分不足は、幼穂の発育や開花受精が妨げられます。また、出穂後の水分不足は登熟歩合の低下により収量・品質が低下します。そのため、水分を与えつつ酸素を供給する水管理が必要です。

○管内のダムの貯水率が低く推移しており、今後の天候によっては農業用水を確保できなくなる可能性も考えられるため、限られた用水で水管理が可能となる「飽水管理」を行いましょう。

① 基本的な水管理

中干し → 間断かん水（穂ばらみ期） → 浅水湛水（出穂期） → 間断かん水（登熟期）

② 用水の確保が難しい場合や出穂後の登熟期間が高温となる場合の水管理

中干し → 飽水管理（穂ばらみ期～登熟期）

～ほうすいかんり飽水管理とは～

従来の水管理方法に比べ、限られた用水で実施可能となります。また、間断かん水に比べ、より土壌を酸化的に保ち、根の活性が高まる管理法です。

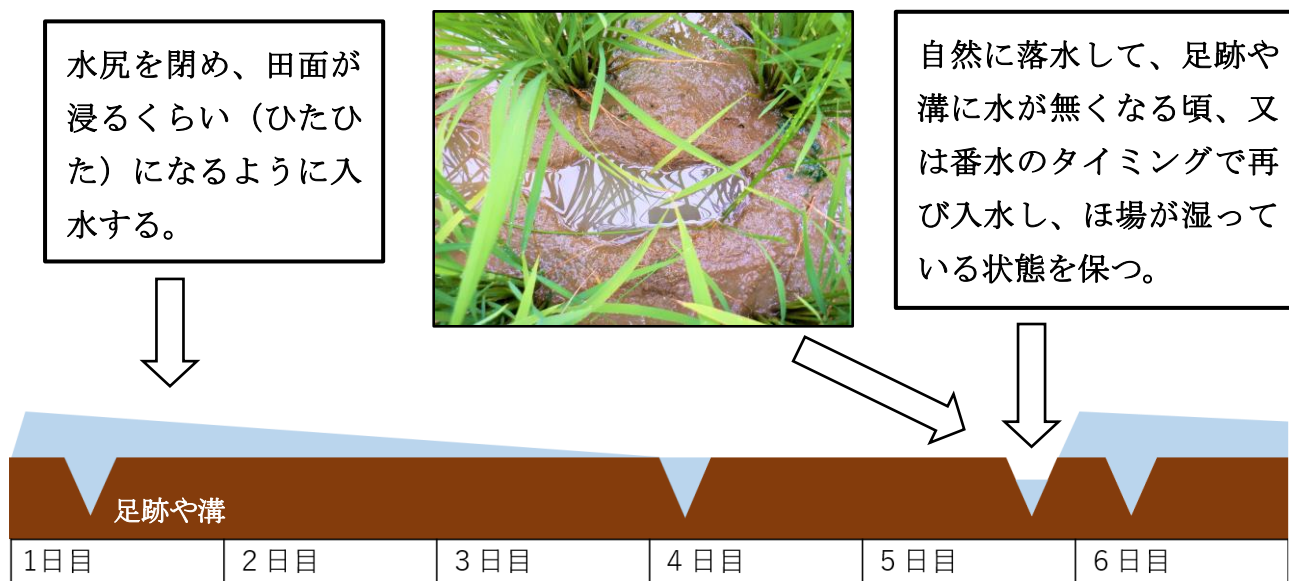
✓実施時期：中干し後から出穂後30日頃まで。

✓入水の目安：水尻を閉めたまま自然落水させ、水田の足跡に水がなくなった頃、または、番水のタイミングで入水する。

✓効果：通常の水管理では夜間に水温が下がりづらいため、稲体の温度も下がらず、光合成で作られた養分を呼吸で消費してしまいます。⇒白未熟粒の発生を助長一方で、「飽水管理」では、夜間に稲体の温度が下がるため、湛水管理よりも白未熟粒の発生を抑制することが期待できます。

重要：入水が的確に行えるように、水田の溝切りは必ず行います。

＜ほ場における飽水管理の例＞



※ 日数はあくまで目安です。地域やほ場の実情にあった水管理をお願いします。

図2 ほ場における飽水管理（ほうすいかんり）の方法

2) 落水時期の目安は「出穂後30日以降」

- 登熟期間の水不足は、未熟粒の増加や千粒重の低下など品質・収量を大きく低下させます。
- 落水時期は出穂後30日以降を目安としますが、ほ場や気候条件等によっては機械作業が可能な地耐力が得られない場合があるので、状況に応じて落水時期を決定します。

4. 病虫害防除

病虫害防除所 発生予報第6号 （宮城県病虫害防除所：7/18発行）

～斑点米カメムシ類の発生に注意して、適期防除に努めましょう～

- ▶斑点米カメムシ類（アカスジカスミカメ）
 - 発生量「多い」
 - 発生時期（第2世代成虫発生盛期）
 - 「8月第2半旬（8/6～8/10）早い」
- 畦畔の草刈りや牧草の刈取りは、出穂の10日前までには終わらせましょう。出穂直前の草刈りは、斑点米カメムシを水田に追い込むことになるので避けましょう。
- 今年度の栗原市の水稻の出穂前後の草刈り自粛期間は「7月24日（木）から8月22日（金）まで」（栗原市水稻カメムシ被害抑制対策本部）
- 注意報第3号を参照。



図5 主要品種であるアカスジカスミカメの成虫

▶葉いもち・穂いもち

発生量「平年並」

○ほ場を入念に見回り、葉いもちの病斑を確認したら直ちに防除しましょう。

○特に、萌えみのり、金のいぶきなどのいもち病に弱い品種や、予防防除を行っていない直播栽培などでは注意しましょう。



図3 いもち病の病斑

▶紋枯病……………発生量「平年並」

○前年に紋枯病が多発したほ場では、穂揃期に茎葉散布剤を散布しましょう。

○巡回調査の結果、発生地点率は平年より低く、発病株率は平年よりやや低くなっています。



図4 紋枯病の発病株

▶稲こうじ病……………発生量「やや少」

○穂ばらみ期に低温で、降雨日数が多いと発生しやすくなります。

○銅剤による防除適期は、出穂10～20日前です。

■農薬危害防止運動実施中 実施期間 6月1日～8月31日

農薬の使用に当たっては、必ずラベルに記載された適用病害虫、使用方法、最終有効年限などを確認して、定められた方法を厳守しましょう。

最新の農薬登録情報は、農林水産消費安全技術センターのホームページで確認することができます。

■農作業中の熱中症に注意しましょう!!

夏に向けて、農作業中に熱中症になる人が増えてきます。熱中症死亡事故の約85%が7～8月に発生しています。熱中症は正しい知識を身に付けることで、適切に予防することが可能です。

予防のポイント

✓高温時の作業は避けましょう。

- ・農作業中の熱中症による死亡者数を年代別に見ると 70代以上が約9割を占めています。高齢者の方は特に注意が必要となります。

✓単独作業は避けましょう。

- ・なるべく2人以上で作業し、時間を決めて声をかけあったり、異常がないか確認しあうようにしましょう。

✓20分おきに休憩&水分補給を行いましょう。

- ・涼しい日陰などで作業着を脱ぎ、体温を下げましょう。のどがかわいていなくても、20分おきに毎回コップ1～2杯以上を目安に水分補給しましょう。

✓熱中症対策アイテムを活用しましょう。

- ・帽子や吸湿速乾性の衣服を着用することや、空調服や送風機、ウェアラブル端末などを活用し、熱中症リスク回避をしましょう。

**本田や周辺畦畔で斑点米カメムシ類が多発！
適期防除を実施しましょう！**

- ・作物名： 水稻
- ・病害虫名： 斑点米カメムシ類(アカスジカスミカメ、クモヘリカメムシ、ホソハリカメムシ)
- ・対象地域： 県内全域
- ・予想発生量： 多
- ・発生時期： やや早い

巡回調査:7月 9～11, 14 日

定点調査ほ:大崎市古川(古川農業試験場)

天候予報:仙台管区气象台7月 17 日発表

1 予報の根拠

- (1) 県内中生品種の出穂期は7月 29 日頃と予測され、平年より3日早い(宮城県米づくり推進本部7月 16 日発表)と予想されている。(－/)
- (2) 定点調査の結果、アカスジカスミカメの第1世代成虫発生盛期は7月第3半旬であり、平年よりやや早かった。また、第2世代成虫発生盛期は、平年(8月第4半旬)よりやや早い8月第3半旬と予測される。(－/)
- (3) 巡回調査の結果、本田や周辺畦畔におけるアカスジカスミカメ、クモヘリカメムシ及びホソハリカメムシの発生地点率は平年より高く、すくい取り虫数は平年より多かった。(図 1～6) (/ +)
なお、クモヘリカメムシは県南部や県北沿岸部ですくい取り虫数が多かった。
- (4) 高温が発生に好適であり、向こう1か月の平均気温は高いと予報されている。(－/+)

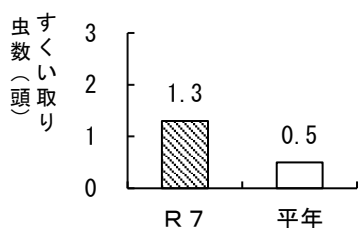


図1 本田におけるアカスジカスミカメ成虫のすくい取り虫数(7月中旬)

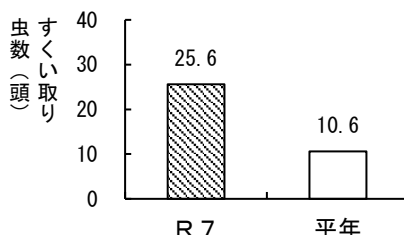


図2 周辺畦畔におけるアカスジカスミカメ成虫のすくい取り虫数(7月中旬)



写真 アカスジカスミカメ

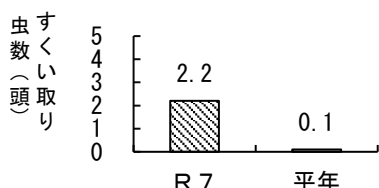


図3 本田におけるクモヘリカメムシ成虫のすくい取り虫数(7月中旬)

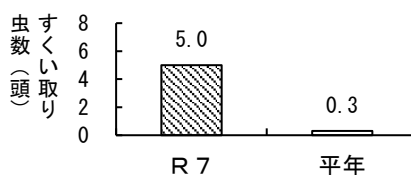


図4 周辺畦畔におけるクモヘリカメムシ成虫のすくい取り虫数(7月中旬)



写真 クモヘリカメムシ

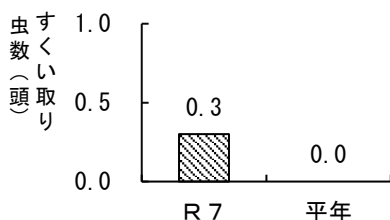


図5 本田におけるホソハリカメムシ成虫のすくい取り虫数(7月中旬)

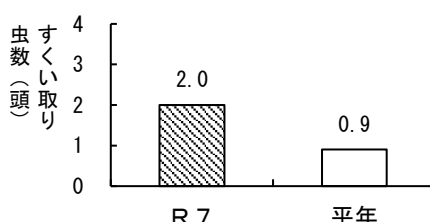


図6 周辺畦畔におけるホソハリカメムシ成虫のすくい取り虫数(7月中旬)



写真 ホソハリカメムシ

2 防除のポイント

- ・水田における薬剤防除は、穂揃期とその7～10 日後の2回が基本である。ほ場をよく観察し(下表参考)、遅れないよう防除を実施する。
- ・イヌホタルイが多発しているほ場では、1回目の薬剤散布を「出穂始～穂揃期」に行うことで、アカスジカシメの密度を低下させ被害を軽減できる。
- ・クモヘリカメムシは水田に越冬世代成虫が侵入し、その後1世代を経過する。クモヘリカメムシの多発地域では、穂揃期とその7日後の2回防除後にさらに追加防除を実施することにより、斑点米被害のリスクをより一層低減することができる。

※普及に移す技術第99号参考資料「クモヘリカメムシの分布域の拡大と防除策(追補)」

<https://www.pref.miyagi.jp/documents/20200/r05sankou18.pdf>

- ・すでにアカスジカシメの第1世代成虫発生盛期を迎えていることから、今後、水田周辺の畦畔や雑草地の草刈りを行うと、成虫を水田内に追い込み斑点米被害を助長するため、原則行わない。やむをえず草刈りを行う場合は、草刈り後直に水田への薬剤防除を実施する。
- ・ジノテフラン液剤(スタークルメイト液剤10等)、エチプロール水和剤(キラップフロアブル)、スルホキサフロール水和剤(エクシードフロアブル)はアカスジカシメに対する防除効果が高く、特に、ジノテフラン液剤は残効が長く、2週間程度は発生密度を抑制することができる。
- ・薬剤は『宮城県農作物病害虫・雑草防除指針』を参考に選定する。
<https://www.pref.miyagi.jp/soshiki/noenkan/boujosisinn.html>

表 地帯区分別の出穂期の予測(令和7年7月10日現在)

地帯区分	田植盛期	出穂期
北部平坦	5/12	7/29
南部平坦	5/13	7/28
仙台湾沿岸	5/11	7/28
西部丘陵	5/13	7/31
三陸沿岸	5/14	8/2
山間高冷	5/16	8/6

注) 出穂期は、「宮城県水稲発育予測プログラム(暫定版)」(東北農研センター)を用いた予測日である。

<予測条件> ①日別平均気温:各アメダス地点のメッシュ農業気象データ(7月10日までは実況値、

その後26日間は予報値を使用)、②移植時期:各地帯区分の田植盛期、③移植時葉数:県生育調査ほ+作況試験ほ「ひとめぼれ」の平均2.9枚、④対象品種:「ひとめぼれ」。

農薬危害防止運動施中!

宮城県では、6月1日から8月31日を農薬危害防止運動実施期間と定め、農薬の安全・適正使用を推進しています。農薬による事故を未然に防ぎ、消費者の皆さんに安全・安心な農作物を届けるため、農薬は適正に使用しましょう。



農薬危害防止運動
リーフレット

《お問い合わせ先》

宮城県病害虫防除所

〒981-0914 仙台市青葉区堤通雨宮町4-17

TEL:022-275-8982 FAX:022-276-0429

E-mail:byogai@pref.miyagi.lg.jp

★宮城県病害虫防除所から『メルマガ』で
発生予察情報の発表をお知らせしています★



宮城県病害虫防除所
トップページ



メルマガ
登録フォーム